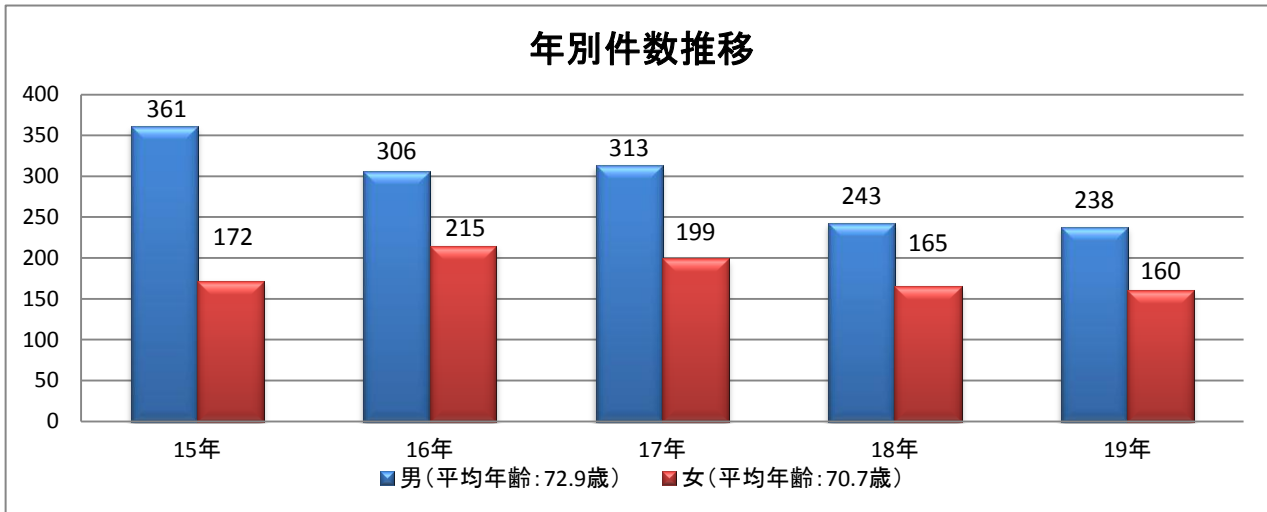
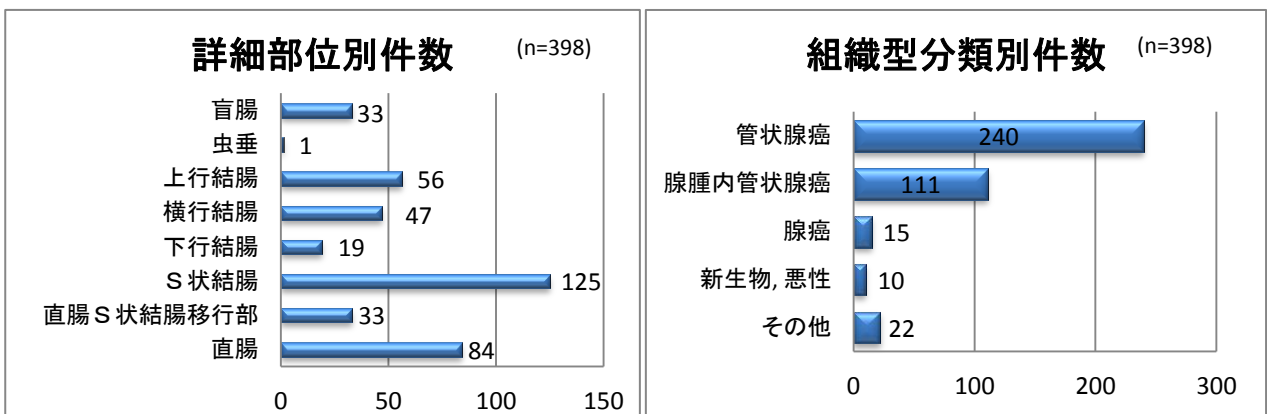


Ⅱ. 2019年集計＜部位別＞

1. 大腸

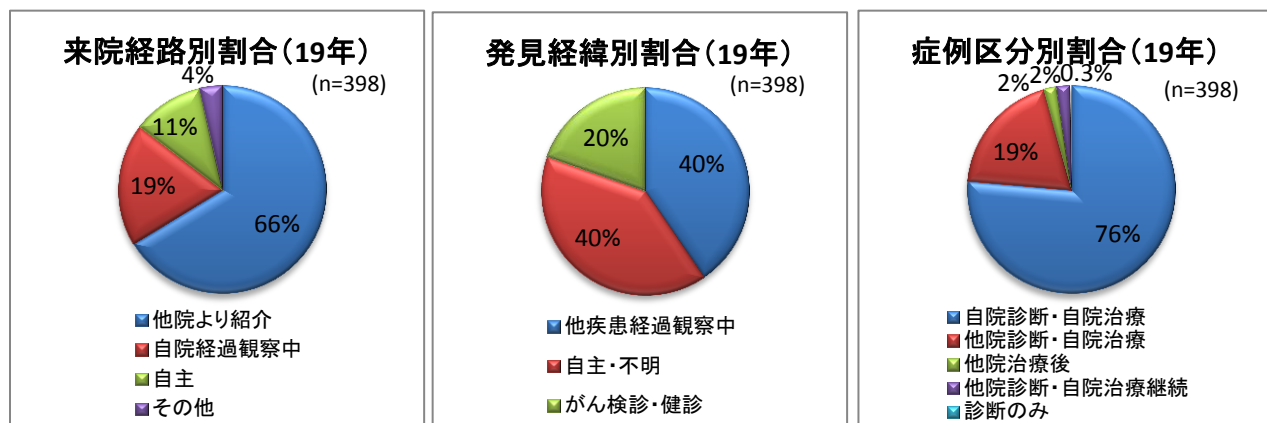


年別件数推移は男女共に件数が減少している。



詳細部位別では「S状結腸」の件数が最も多い。

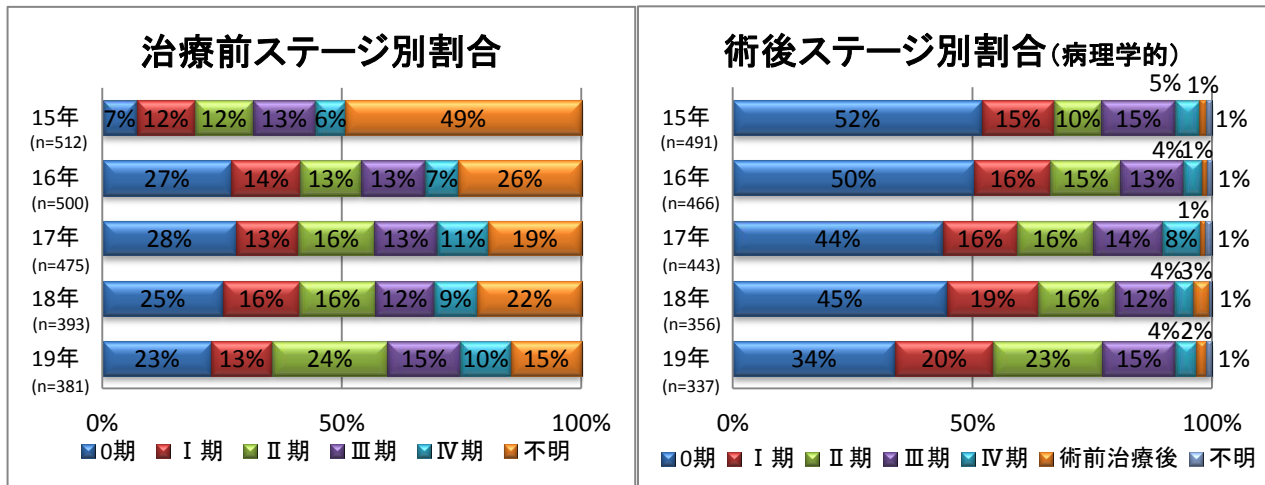
組織型分類別は「管状腺癌」が最も多く、次いで「腺腫内管状腺癌」の件数が多い。



来院経路別割合は「他院より紹介」の割合が約7割を占めている。

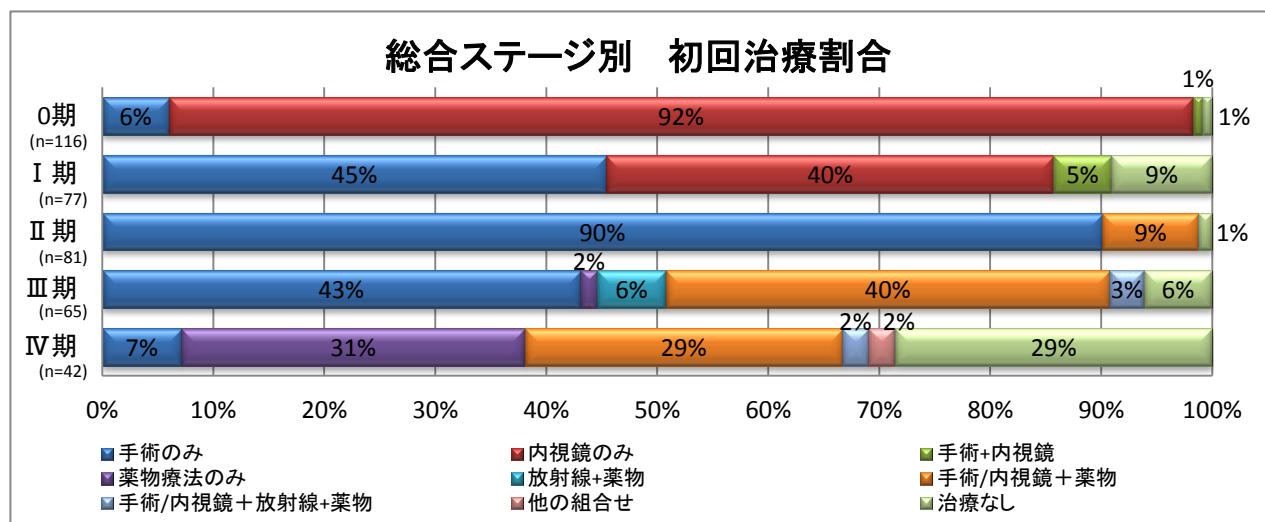
発見経緯別割合は「他疾患経過観察中」と「自主・不明」の割合が高い。

症例区分別割合は「自院診断・自院治療」の割合が高く約8割を占めている。



治療前ステージは「II期」～「IV期」の割合が増加している。術後ステージは「I期」～「III期」の割合が増加している。

※「術前治療後」には、術前に化学療法や内分泌療法で病変を小さくしてから手術する症例が含まれる。



0期では「内視鏡のみ」の治療が約9割を占めている。I期は「手術のみ」と「内視鏡のみ」、II期は「手術のみ」、III期は「手術のみ」と「手術/内視鏡+薬物」、IV期は「薬物療法のみ」の治療が多くなっている。